

「みがき合い、支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒」

< 12月の学校経営方針 >

【評価と改善】…評価を基にした現状（課題）の再確認と改善策の策定

11月に提示した今年度の重点目標に対する評価や学校評価、授業評価を実施することで新たな現状把握を行い、課題を明確にした上で改善策を策定するのが今月の大きな目標である。それぞれ具体的な数値目標に照らして、課題を明確にし、3学期の重点的な取り組み、あるいは次年度教育課程の変更点等を具体的に検討していかなければならない。目に見える変化をつくり出すのはさほど難しくないが、それを継続させていくためには、システム構築が不可欠であり、現状に満足せず、改善点を洗い出す貪欲さや新たに挑戦しようとする意欲が必要である。そして、そのやる気を引き出すカギは、「このままでよいのか?」「どうしたらよくなるか?」「何のためにやっているのか?」といったとてもシンプルな問いである。そして可能性を基にしながらか未来に焦点を当てた評価や仲間の励まし合い、声掛けによって、その意欲が維持されていくのである。

「白山ブランド」の構築のために

(1) 授業改革（主体的・対話的で深い学び）

○明確な学習課題の設定、学習形態の工夫、振り返りの確保するための方策は？

- ・毎回授業の学習課題を青枠で設定するために→問題解決型「？」にすることはできないのか。
- ・ペア、グループ、全体での思考の場を設定するために→常に班隊形にすることはできないのか。
- ・「何がわかったか、できたか」を認知するために→授業評価を単元ごとにできないのか。

(2) 心の教育（道徳、いじめ、生命、思いやり）

○「いじめ対策」が具体的になされるようにするための方策は？

- ・学級集団を育成するために→班隊形での朝の会や帰りの会の運営はできないのか。
- ・グループ内での「学び合い」が成立するために→グループ機能を2つに絞って取り組めないのか。

(3) 安全安心（健康・体力向上、メンタル、防災、食育）

○冬トレや部活を全校体制で指導するための方策は？

- ・冬季トレーニング等全校体制で取り組むために→達成目標を設定し、認知させることはできないのか。
- ・部活動を全校体制で取り組むために→開始終了の挨拶指導、放課後活動への追い出しを分担できないのか。

○全校体制で「具体的な長欠対策」を行うための方策は？

- ・校内適応教室を効果的に活用するために→個別の指導計画を作成し、ステップアップできないのか。
- ・長欠生徒の保護者のネットワークを構築するために→進路保護者会や期末保護者会を開催できないのか。

(4) 生徒主体（行事、生徒会、部活）

○生徒会活動を新組織で主体的に取り組むために→拡大委員会の活動を見える化できないのか。

○委員会活動が主体的に運営するために→各委員会でマネジメント手法を取り入れられないのか。

(5) 三大伝統（挨拶、歌声、清掃）

○「明るく元気な挨拶」→「(あ)・(い)・(さ)・(つ)」を意識するために→具体的な活動はできないのか。

○「美しく響く歌声」→歌声活動の日常化を図るために→朝・帰りの会での位置づけはできないのか。

○「心を磨く清掃」→「黙動」の目的を理解し、清掃活動を活性化するために→モデル清掃はできないのか。

「研究と課題」のために

(1) 「自ら、共に学ぶ生徒の育成」～主体的・対話的で深い学びの実践を通して～

○授業改善のために→「授業ルール」や「対話型の授業」を小中で連携し、守るべき姿を明示できないのか。

○「わかる・できる授業」をつくりあげるために→生徒指導の機能を活かして取り組めないのか。

○「インクルーシブ教育」推進のために→UDの視点に立った教室環境や板書、言葉かけはできないのか。

○「考え議論する道徳」を実践するために→価値項目を明確にし、テーマをもって話し合えないか。

「連携推進」のために

(1) 小中一貫を進めるために→ランドデザイン（案）を創りあげることはできないのか。